

# 日本ブロンテ協会関西支部 2025年大会プログラム

場所： 近畿大学 東大阪キャンパス 38号館 2階 S-202  
(〒577-8502 大阪府東大阪市小若江 3丁目 4-1 近鉄大阪線「長瀬」駅下車 徒歩約 10分)

日時： 2025年3月21日(金)14:00~16:50

司会： 小田 夕香理 (富山大学准教授)

開会挨拶 (14:00~14:05)

開会の辞： 奥村真紀 (日本ブロンテ協会関西支部支部長・京都教育大学教授)

会長挨拶： 栗栖美知子 (日本ブロンテ協会会長・大東文化大学名誉教授)

研究発表 (14:05~15:05)

- 『ジェイン・エア』——登場人物をとおして描かれた学びと成長  
音部 みはる (大阪府立豊中高等学校教諭)
- 空への憧れと大地への愛  
——『ジェイン・エア』と『嵐が丘』におけるヒロインたちの上下の志向性  
井寺 利奈 (近畿大学非常勤講師)

総会 (15:05~15:15)

講演 (15:45~16:45)

講演司会： 菟原 美和 (近畿大学准教授)

Charlotte Brontë: the Irish Connection

Pauline Clooney

(*Charlotte & Arthur* の著者、The Banagher Brontë Group 役員)

閉会の辞： 服部 慶子 (日本ブロンテ協会関西 支部顧問・関西外国語大学教授)

懇親会 (17:15~19:15)

会場： THE LOUNGE (アカデミックシアター 4号館 3F)

日本ブロンテ協会関西支部事務局

〒535-8585 大阪市旭区大宮5-16-1 大阪工業大学 工学部総合人間学系教室 瀧川宏樹研究室内

TEL : 06-6167-5191 E-mail : bronte.kansai@gmail.com

## 1. 『ジェイン・エア』——登場人物をとおして描かれた学びと成長

音部みはる

(大阪府立豊中高等学校教諭)

『ジェイン・エア』(*Jane Eyre*, 1847)では、主人公のジェインが成長する様子がほぼ全編をとおして描かれるが、それにはいつも「知」が伴うことに気づくのではないだろうか。

ジェインは寄宿学校での学びや出会いをとおして、忍耐を身につけ、他人を思いやり、そして人の役に立ちたいと考える人間へと成長した。また、新しい世界へ飛び出す行動力も備わった。さらに、ロチェスターが惹かれたのはジェインの深い知性や教養であったし、絶望のジェインを立ち直らせたのもまた教師という仕事であり、学校という職場であった。

シャーロット・ブロンテ(Charlotte Brontë, 1816-1855)も、学校で学び、家庭教師となり、留学をして、文筆活動をも展開した。そして学校の創設を計画していたことから、学びが人を新しい世界へと導き、成長させることを彼女は実感していたのではないだろうか。この作品に、知を通じた成長の普遍性を描き、夢を未来に託したのではないかと結論付けたい。

## 2. 空への憧れと大地への愛

——『ジェイン・エア』と『嵐が丘』におけるヒロインたちの上下の志向性

井寺利奈

(近畿大学非常勤講師)

『ジェイン・エア』(*Jane Eyre*, 1847)のジェインと、『嵐が丘』(*Wuthering Heights*, 1847)のキャサリンは、どちらも「高いところから落ちる」夢をみる。前者は、ソーンフィールド屋敷の屋上から落下し、後者は天国からヒースの茂みに落とされる。ここで注目したいのは、両作品における「落下」という典型的な悪夢の共通性だけでなく、ヒロインの反応の著しい対照性である。ジェインが落下するまいと必死に抵抗するのに対し、キャサリンは地上に降り立って、喜びの涙を流す。それぞれの上下の志向性は、彼女たちの内的葛藤やアイデンティティを反映し、作品全体のテーマと密接に関わっているように思われる。本発表では、『ジェイン・エア』のバーサや、『嵐が丘』の第二世代のキャサリンにも着目し、作品の具体的な細部から、ヒロインたちの上昇または下降を目指す行動に焦点を当て、その意味を検討したい。